尚徳寮

令和２年１２月２４日
鳥取大学附属中学校
Ｎｏ．１０

１０月から始まった後期は本日授業終了日を迎え、明日から１３日間の冬休みに入ります。生徒たちには生活リズムを崩すことなく、有意義に過ごしてほしいと願っています。１・２年生には家の手伝いなどで、家族の一員としての自覚を持たせてやっていただけたらと思います。３年生は、年明けには各私立・県立高校の入試を控えています。それぞれの進路実現に向けて充実した冬休みとなるよう祈念します。

保護者の皆様には、今年一年、新型コロナウイルス感染症への対応を含め、様々な形で学校の教育活動を支えていただき、ありがとうございました。皆様、良いお年をお迎えください。

文化祭　展示の部開催

１１月にとりぎん文化会館で開催したステージの部に引き続き、文化祭展示の部を１２月１４日（月）から１８日（金）まで本校多目的ホールを中心に開催しました。ステージの部と展示の部の二部構成で実施するのは、展示を生徒もじっくりと鑑賞するためです。今年は附属学校４校園の繋がりを持つため、附属幼稚園、小学校、特別支援学校の園児、児童、生徒の作品も展示しました。小学校児童の皆さんが見学する時間も設定され、交流の場の１つとなりました。期間中は後期懇談会も実施され、多くの保護者の方にもご覧いただけたことと思います。

文化祭は、教科や部活動で学習した成果を発表する場、表現する場です。どの作品も今までの学習の積み上げを感じさせる素晴らしいものでした。

1年生～キャリア・メッセージ2020～

１２月４日（金）１年生を対象に「キャリアメッセージ２０２０」を開催しました。これは、社会人・職業人による体験談や専門的講話を聞くことを通して、働くことの意義や自分の生き方について考え、目的意識をもって学校生活を送っていく意欲を高めることをねらいとしています。

この取り組みの特徴は、教育懇話会役員の方が、生徒に聴かせたい講師のリストを作成し、役員自らが講師に依頼する点です。本年度も１０名の様々な職業の方においでいただきお話を聞いたり、質問したりしました。どの講師の方もメッセージ性の高いお話をしていただきました。また、当日は代表を中心に、生徒が運営を行い、懇話会役員の方にも各講座に２人ずつ付いていただきました。生徒の感想を抜粋していくつか紹介します。

☆講師　武内　雄紀さん　「消防の仕事」より

「頭はクールに、心はホットに」と言う言葉が印象に残っています。いろいろな場面で冷静でいないといけないときは多くあるので、自分も気をつけていきたいと思いました。

☆講師　小林　沙貴さん　「アナウンサーの仕事紹介」

「好き」を仕事にすると楽しくなると知り、私も自分の「好き」を仕事にしたいと思いました。また、私はすぐに緊張してしまうので、「思いっきり限界まで吐いてから吸う」と言うことを知り驚きました。

☆講師　徳吉淳一さん　「薬剤師の仕事について」より

薬剤師は薬が最高の効果を発揮することを目指していることを学びました。仕事とは「働くことでしか味わえない人生の充実感を味わうためのものだ」ということが印象に残りました。

☆講師　藤田　和俊さん　「『自分』を生きる」より

印象に残っているのは、「お金は、人に喜んでもらった量と質で、自分の仕事に対する評価だ」と言う考え方です。自分がした仕事がどれだけ人に喜んでもらえるかでもらえるお金の量が変わるとの考え方は素敵だなと思います。

☆講師　中田　一幸さん　「高校英語教師としてのやりがい」より

「生徒達のそばで成長を共に感じられること」が教師としてのやりがいになっているという言葉が印象に残っています。最初は、教師の仕事はとても大変なものだと思っていましたが、楽しいやりがいのある仕事でもあることが伝わってきました。。

☆講師　小林　誠人さん　「プロフェッショナル　情熱的救急医　仕事の流儀」より

先生の「救命にゴールはないが、成長することはできる」という言葉が心に残りました。私はすぐ「ここまでやったからもういいや」とすぐ満足してしまいます。すぐゴールを決めず、日々成長していけるようになりたいです。

☆講師　松林　安美さん　「鳥取県庁の外郭団体とカフェ経営の2刀流が楽しい！」

自分も倉吉出身なので、知っているアニメ、会社、地名などが出てきて共感して話を聞けました。「中学校で、はまったことは大人になっても役に立つ」という言葉を言っておられ、自分もアニメが好きなので何かの役に立つことを願っています。

☆講師　若松　信宏さん　「税理士の仕事について」 より

「税理士は経営者のパートナー」とおっしゃたことが印象に残りました。経営者は会社のトップなので、周りに悩みを話しづらい面があり、そういう方々の相談にのって解決される税理の方々はすごいなと感じました。

☆講師　茂木　庄司さん　「スポーツトレーナーとして働いてみて　～夢と現実～」

どのような仕事でも「最後の評価は人間性である」と学びました。人の話を素直に聞く耳を持つこと、自分からあいさつ、ごめんを言うということを意識して生活を送り、人間的に成長し、人を助けられるような存在となれるようがんばります。

☆講師　吉谷　勇一郎さん　「鳥取の消防車メーカーが考える未来設計図」 より

吉谷機械製作所は中国地方で唯一の消防車メーカーということを知り驚きました。「これからの時代を楽しめるように、なりたい自分の種をまこう」という言葉が大変心に残っています。